

ビデオ 通信

2016年
12月8日(木)
No.4039

60TH ANNIV.

SINCE 1956

月・木曜日発行
1ヶ月¥11,000(税別)
発行：飯澤剛 編集：齋藤浩一

ユニ通信社

〒106-0047
東京都港区南麻布 5-2-37
DEPECHE MODE 1F
TEL : 03-5422-7515
FAX : 03-5422-7516
E-mail : vt@uni-press.net

ヌーベルアージュ

渋谷スタジオに 8K 編集室「Edit 8K HDR」オープン Quantel Rio 8K 導入、22.2ch マルチ音響にも対応



下田ビル3階に新設した「Edit 8K HDR」

ヌーベルアージュ(株)はこのほど、8K/HDR/22.2ch マルチ音響に対応した8K編集室「Edit 8K HDR」を渋谷スタジオにオープンした。メイン編集システムに Quantel Rio 8K (スネル・アドバンスト・メディア)、8Kレコーダーに8K P2レコーダー(パナソニック)を採用。サブシステムとして4K/HDR対応の Media Composer (アビッド) や DaVinci Resolve Studio (ブラックマジックデザイン) も導入した。併設するインジューストルームに導入した nep infini (NHKエンタープライズ) + Transkode (color front) によるデータマネジメントシステム等とあわせ、8K/60pのリアルタイム再生・キャプチャーを実現。さらに、22.2ch マルチ音響に対応した視聴環境を整えていること、システム間ネットワークに 12G-SDI を採用していることも大きな特徴だ。同社ならではのワンストップソリューションで、企画・制作・撮影・編集・仕上げに至る全ての工程を自社グループだけで行った8K/HDRコンテンツ『笠間』を自社制作。11月に開いた内覧会やセミナー等で、放送業界や映像関係者に披露し、高い評価を得た。同社では〈2020年東京オリンピック/パラリンピックに向けて需要の拡大が見込まれる2K/4K/8K一体化制作に向けた環境整備や人材育成への取り組みをグループ全体で進め、“映像総合プロダクション”としての強みを訴求していきたい〉としている。

8K/60p HDR のリアルタイム再生・キャプチャーに対応

「Edit 8K HDR」は、「渋谷スタジオ」の拠点の1つである下田ビルのワンフロア(3階)全体を用いて整備したもので、同編集室とインジューストルーム、マシンルームおよびラウンジともにゆったりとしたスペースを確保している。

「Edit 8K HDR」のメインシステム(8K編集システム)に



ゆったりしたラウンジ



Quantel Rio + NeoNano Panel

は、8K制作で多くの実績を有する Quantel Rio 8K (8K/60p HDR、4K/60p HDR 対応) を導入し、コントロールパネルは NeoNano パネルを採用。Plug-in は Sapphire、Neat Video、Primatte Keyer。色域変換プロセッサ「LMCC-8000」(開発) も導入している。

また、Media Composer (Symphony Option / 4K/60p HDR 対応)、DaVinci Resolve Studio (4K/60p HDR 対応) および Adobe Premiere Pro CC によるサブシステム (4K 編集システム) も併設しており、Plug-in は Sapphire と Boris が使用できる。

8K モニターは「LV-85001」(シャープ / 85 インチ / 8K HDR 対応)、4K マスターモニターは「BVM-X300」(ソニー / 30 インチ / 8K HDR 対応)。レコーダーは 8K P2 レコーダー「AJ-ZS0500」(パナソニック) で、LTO-6 バックアップシステムも用意した。また、HDR については、PQ だけでなく HLG にも対応。モニター類は新しい規格である BT.2100 にも対応できるようになっている。



8K P2 レコーダー

常務執行役員 8K 室 担当の鈴木明氏は「当社では 2 年前から 4K に対して積極的に取り組んできました。実験システムとして Mac による 4K 対応に始まり、Media Composer による 4K/60p にも対応し、早い段階から人材育成にも努力してきました。4K/8K も同様に他社より一歩先駆け、業界のイニシアチブを掴みたいと考えています」とする。

Quantel Rio のエディターは、渋谷スタジオ、新橋スタジオに 1 人ずつ在籍するほか、システム設計の中心となったエディターを含め、合計 4 人のスタッフが対応。今後はさらに増やしていく計画だという。渋谷事業本部 統括業務部長の岡本智拓氏は「今後の大きなテーマとして「若い人材の育成」があります。当社に多数在籍しているリニア/ノンリニアのエディターにとっても Quantel Rio は全く新しい機材なのですが、非常に高い関心を示しており、業務時間外に自主練習をしている人もいます。社員のモチベーションの高さそのものが、今後の成長にも大きく影響し、堅実なサービス提供につながっていくのだと考えています」とする。

nep infini + Transkoder によるデータマネジメント



インジェストルーム

編集室と隣接したインジェストルームでは、NHK エンタープライズが開発した 4K 制作支援ソフト「nep infini」と Colorfront 社のデジタルファイル変換システム「Transkoder」の組み合わせにより、4K 収録した素材データの管理から HD 変換、プライマリーグレーディング、アーカイブまでをトータルにマネジメントできる。Transkoder は 2 台導入し、オペレーション環境を編集室内に持ち込むこ

ともできる。8K P2 レコーダーの導入により、Quantel Rio への書き込みがリアルタイムで可能。最終的なアーカイブは P2 レコーダーで行い、LTO-6 によるバックアップシステムも有している。同ルーム内のモニター環境は全て編集室と同じ仕様とし、DaVinci Resolve 等も導入しているため、この部屋だけでも 4K 編集が可能な体制となっている。



スーパーグループ全体で制作した 8K コンテンツ『笠間』

同社では「Edit 8K HDR」開設に併せて、8K/HDR コンテンツ『笠間』を自社制作した。撮影には HELIUM 8K S35 センサーを搭載した「RED EPIC-W 8K S35」を使用している。

鈴木氏は「将来の 2K/4K/8K 一体化制作の実現に向け、グループ会社のスタッフが撮影、演出を担当し、様々な実験的な要素を含めて、良いところ・悪いところも全て出し切ってみようと考えながら制作したものです。HDR に関しては外部グレーダーを起用し、この編集室を使って私たちが勉強しながらグレーディングしていきました」。岡本氏は「『笠間』では、企画・制作・撮影・編集・仕上げという一連の 8K 業務にグループを挙げて取り組むことができたことに意義があると考えています。グループ全体の制作環境や人材のスキルを高めていくことで、「映像総合プロダクション」としての強みを活かし、2020 年の東京オリンピック/パラリンピックに向けて需要の高まりが期待される 8K コンテンツの制作に臨んでいきたい」と話している。

8K/22.2ch 視聴環境の整備は大きなアドバンテージに

「Edit 8K HDR」の大きな特徴として「22.2ch マルチ音響」への対応がある。NHK が公開している資料を基に編集室内の前後左右に上段・中段・下段の計 22 台とスーパーウーファー 2 台の合計 24 台のスピーカーを配置。スーパーハイビジョン (SHV) の特徴である 8K 高解像度と 22.2ch マルチ音響の視聴環境を整えている。



天井や壁に多数設置されたスピーカー群 (円内がスピーカー)

オペレーションスペースは円形に近い八角形の編集室後方に配置。85 インチモニターの前に 2 列のソファが並ぶクライアントスペースでは、85 インチモニターによる 8K 映像と 22.2ch マルチ音響の臨場感と立体感がベストの状態体験できる。内装および音響設計は(株)羅漢一級建築士事務所が担当した。

鈴木氏は「8K/22.2ch が視聴できる——これは映像業界において大きなアドバンテージとなると考えています。当社はテレビ番組の業務が中心ですが、「Edit 8K HDR」に関しては、テレビ CM のお客さまも自信を持って受け入れることができる作りとしました。高解像度・大画面の環



クライアントスペース

境で CM や大型映像を作ってみようというお客さまと一緒に、新しい映像の作り方に挑戦したいという想いもあり、内装的には若干オーバースペック気味かなとも思える環境を整備しました。現状、当社には 5.1ch オーディオに対応するミキサーが 3 人いますが、22.2ch 環境には対応できていません。今後必要となるスタッフの育成や天井高 5 メートル前後の MA ルームの整備も含め、2020 年に向けて検討していきます」としている。

(次ページへ)

館内を 12G-SDI でネットワーク

さらに、「Edit 8K HDR」開設に併せて 12G-SDI 対応ルーターを導入。館内を 12G-SDI システムでコントロールできる仕組みになっており、40G の高速ネットワークで 2 階の 4K 編集室とも接続している。今回のシステムの基本設計は鈴木氏が行い、システム設計は同社の若手中心のプロジェクトチームで行った。〈次世代のネットワークも見据え、“野心的” に若い人達的能力を採り入れて設計しています。今後増加するであろう 4K/8K 業務を見据え、少々オーバースペックかと思える部分も含めて、思い切って採用しています。非常に面白い環境ができたと思自負しています。是非、多くの方にご利用いただきたい〉と鈴木氏。施工は(株)朋栄が担当した。

ヌーベルグループ全体による「2K/4K/8K ワンストップソリューション」を訴求

今回の「Edit 8K HDR」開設により、ヌーベルアーヂュのポストプロダクション体制は渋谷スタジオ（エース松涛ビル、下田ビル、サイトービル 3）が ECS × 5 室、PD 編集室 × 17 室、MA × 6 室、リニア × 2 室、8K 編集室、インジュエートルーム。新橋スタジオ（新橋駅前ビル、Daiwa ビル）がノンリニアオンライン × 4 室、リニア × 10 室、MA × 4 室、Hybrid MA × 1 室となった。

「Edit 8K HDR」における 8K 業務の具体的な実績はまだないが、2016 年度中に同編集室で 8K 編集が行われる予定だ。また、同編集室による 4K 業務の問い合わせが多数来ているとしている。

鈴木氏は〈「Edit 8K HDR」では“4K 非圧縮”も訴求しています。例えば XAVC 収録の案件は 2 階の「ECS 4」、RAW や Log 収録の 4K 作品は「Edit 8K HDR」を使用するなど、条件や用途によって使い分けができるのではないかと考えています。また、8K は放送以上にパブリックビューイング等での活用が早いのではないかと考えています〉とする。

また〈「ヌーベルに頼めば何でもできる」というイメージをしっかりと定着させていきたい。2020 年に向け、「2K/4K/8K もヌーベルに頼めば安心」というお声を頂けるように、グループ全体でワンストップソリューションを実現すべく、堅実に取り組んでいくことが、当グループが掲げる「ミタコトナイ！を創像する。」そのものにつながっていくと確信しています〉と抱負を語る。

◇ヌーベルアーヂュ <http://www.nouv-age.co.jp/>



岡本智拓氏（左）と鈴木明氏